

やすらぎ

日本聖公会 九州教区 福岡聖パウロ教会
〒810-0045 福岡市中央区草香江 2-9-22
TEL 092-751-0097 FAX 092-751-9916
発行人 司祭 バルナバ 牛島幹夫

250号

2019.12.15 発行

YASURAGI



～神の祝福が私たちの前に～

司祭 バルナバ 牛島幹夫

「おめでとう恵まれた方。主があなたと共におられる。」ルカによる福音書 1:28

クリスマスを待ち望む季節です。クリスマスの祝いと共にできることを楽しみにしています。

12月24日の夕べはクリスマスイブ礼拝です。ろうそくの光の中で、いくつかの聖書を聞きながらイエスの降誕物語をたどっていきます。降誕物語の最初のシーンとしてイメージされるのが、マリアへの御告げの場面ではないでしょうか？天使ガブリエルがマリアのもとを訪れ、神の子イエスが生まれてくるところです。

突然、目の前に天使が出現するというだけで驚きですが、天使ガブリエルはマリアにいきなりこう言いました。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」マリアはこの挨拶に何のことも考え込みました。おめでとう、というのは素晴らしい言葉です。何かを成し遂げたとき、特別なとき、誕生日、結婚式 etc.. 私たちは、「おめでとう」と言い合ってお祝いをします。

しかし、冷静に考えると、マリアがこの後に聞くメッセージは、あまり良いものではありません。マリアはこのとき14～5才だったと言われていますが、許嫁であるヨセフとの結婚を控えているというのに、「あなたは、神様によって身ごもりました。その子をイエスと名付けなさい。」などと言われてしまうのです。もし私が天使だったら（そんなことは起こりませんが）、こんな告げにくいことを伝えにくい役目を神様に言いつけられて、胃が痛くなってしまおうでしょう。実際マタイ福音書によると、許嫁のヨセフは

密かに離縁を考えたと記されています。ヨセフを初めとする周囲の人も大いに悩んだに違いありません。（ヨセフについては、夢に天使が現れたおかげで離縁を思いとどまるのです。）

この御告げのとき天使は、まず最初に「おめでとう」とマリアに告げました。「おめでとう」はお祝いの言葉であり、祝福の言葉です。マリアがこの先に歩む道は平坦なものでなくなりましたが、マリアは神様に大いに祝福されていたのです。「神様に祝福されている、神様が常にともにいる。」というメッセージを最初に受け取ったからこそ、マリアは神の子イエスを産み育てるという大変な役割を担うことができたのではないかと、私は思います。

私たちの信仰の歩みも神様のご計画の中にあります。そして、その前には神様の祝福があるのです。私たちの歩む道の前には必ず神様の祝福がある、というメッセージをこの物語から受け取りたいと思います。

教会の日々の中で、幼稚園で子ども達と過ごす日々で、また園児の家族や近隣の方との交わりにおいて、この天使のようにまず相手を祝福するものでありたいと私は願っています。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」という思いを常に真ん中に持ちながら、神様の祝福を配る器になれるとき、福音を生きる者になれると思うのです。